

函館工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	現代社会	
科目基礎情報							
科目番号		0066		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		生産システム工学科		対象学年		3	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		「高等学校 新現代社会 新訂版」 (清水書院) 「高等学校 新現代社会 新訂版ワークノート」 (清水書院)					
担当教員		奥平 理					
到達目標							
1. 主要な宗教と日本国憲法について、データ等を用いてそれぞれの特徴を説明できる。 2. 資本主義と企業について、データ等を用いてそれぞれの特徴を説明できる。 3. 国際社会とグローバル化について、地図やデータを用いてそれぞれの特徴を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		主要な宗教や日本国憲法に関する高度な専門用語を理解し、データ等を用いて特徴を明快に説明することができる。		教主要な宗教や日本国憲法に関する基礎的な用語を理解し、データ等を用いて特徴を大まかに説明することができる。		居眠りや内職、携帯電話を見るなど授業に集中しない。または提出物を期日までに提出しない。	
評価項目2		資本主義と企業に関する高度な専門用語を理解し、データを用いて特徴を明快に説明することができる。		資本主義と企業に関する基礎的な用語を理解し、データ等を用いて特徴を大まかに説明することができる。		居眠りや内職、携帯電話を見るなど授業に集中しない。または提出物を期日までに提出しない。	
評価項目3		国際社会の現状とグローバル化に関する高度な専門用語を理解し、データや地図を用いて特徴を明快に説明することができる。		国際社会の現状とグローバル化に関する基礎的な用語を理解し、データや地図を用いて特徴を大まかに説明することができる。		居眠りや内職、携帯電話を見るなど授業に集中しない。または提出物を期日までに提出しない。	
学科の到達目標項目との関係							
函館高専教育目標 D							
教育方法等							
概要		現代社会は人文・社会学的視点から人間・社会・文化について多面的に理解するための科目である。現代社会が直面する諸課題について、各種データや地図等を用いてアプローチする。そして、現代社会が直面するさまざまな問題に対して、データや地図を用いて説明できるようになる。					
授業の進め方・方法		現代社会における諸課題をとらえ、考察するための枠組みを身に付けること。また、21世紀に入りますますます激しく変化する社会に対する関心を高め、この社会のなかでいかによく生きていくのかを考察することの大切さを自覚すること。世界で活躍する技術者にはこうした知識が必要不可欠であり、本授業内容の完全理解と自学自習への積極的な取り組みが求められる。授業前日までに予習し、授業日に復習することが望ましい。ワークノート・問題集での予習復習に自ら進んで取り組むこと。					
注意点		◎本授業では教科書等の忘れ物や授業中の居眠り、携帯電話の使用等について-5点/回の減点を行うので、十分に注意すること。 ◎提出遅れは翌日午前10:40～午前10:39迄:-5点、以降-5点/日。未提出は学年成績-(10点/回)。ただし、欠席と特別欠席は登校日の午前10:40まで締切を延長するので、レポートに「欠席・特欠とその理由」を明記すること。記載がないものには救済措置をとらない。 ◎写しと判断したレポート等の提出物は誰がオリジナルであろうともすべて0点とするので十分に注意すること。 ※本授業で扱う内容は、すべて高専卒業生として当然の知識として期待されるコアであることを留意してほしい。					
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス 1.生き方と宗教			・現代社会での学習内容・学習方法を理解する。 ・判別教・仏教の違いと思想を理解できる。	
		2週	2.憲法とは何か			・憲法の歴史と憲法の特徴を理解できる。	
		3週	3.日本国憲法制定とその原理			・日本国憲法制定の経緯とその原理を理解できる。	
		4週	4.基本的人権の尊重と平等権の保障			・基本的人権の意味と平等権について理解できる。	
		5週	5.資本主義経済のしくみとその変容			・資本主義経済のしくみとその変容を理解できる。	
		6週	6.市場経済の機能と限界			・市場経済のしくみと問題点を理解できる。	
		7週	7.現代の企業			・企業のしくみとその動向を理解できる。	
	8週	8.消費者問題と企業の責任			・消費者問題の定義と企業の責任を理解できる。		
	2ndQ	9週	9.雇用・労働問題 1			・雇用の課題を幸福・公正・正義の観点から理解できる。	
		10週	10.雇用・労働問題 2			・グループ討議を通じて、わが国の雇用・労働問題や将来の見通しを理解できる。	
		11週	11.社会保障の意義・しくみとその課題 1			・社会保障制度を幸福・公正・正義の観点から理解できる。	
		12週	12.社会保障の意義・しくみとその課題 2			・グループ討議を通じて、わが国の社会保障の問題点や将来の見通しを理解できる。	
		13週	13.これからの国際社会 1			・新興国の躍進と国際経済のグローバル化を理解できる	
		14週	14.これからの国際社会 2			・グループ討議を通じて、グローバル化とわが国の製造業との関係や将来の見通しを理解できる。	
		15週	定期試験				
16週		試験答案返却・解答解説			・間違った箇所を理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力		人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	

				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合						
	定期試験	レポート	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	60	0	0	0	100
基礎的能力	35	55	0	0	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	5	5	0	0	0	10